

象，目的を論述した。⑤家政学の複雑性についての諸因子を挙げて解明を試みた。⑥また，家政学の本質は適応科学であるとの仮説を行ったのである。一方，日本家政学雑誌，米国の *Journal of Home Economics* の分類を，それぞれ発表した。今回は，さらに両者の集計を1957年に至るまで行い，選択された研究問題を比較対照しながら，家政学研究者の傾向その他を観察することにした。また，④，⑤については，さらに推理論証の結果を報告しながら，以下の結論を述べるものである。

“家政学の領域は隣接諸科学の発達の度合に著しく依存して進歩する” また，“家族ならびに家庭生活は文化，社会経済，地理的，環境等の変化に従って，それ自体を適応しながら，独自のあり方を創りつつ目標に近づく”。

A-8 家政学の諸問題（その 3）

大妻女子大学 前川 富子

すでに二回にわたり，④家政学と隣接諸科学については，人文，社会，自然科学の三分野に分類するやり方を述べ（象徴図も入れて），家政学の領域を限定し，その対